

加えると、日本アルプスをはじめ中部地方の主な山はほとんどカバーできます。「豊橋」は範囲が狭いので「高田」に代えても良いでしょう。

仮に10枚揃えるとして、1ページで単価を示しましたが、購入すれば3290円、コピーすれば1000円です。これを登山の必要経費と考え揃えて下さい。なお、市販の20万図は紙質がそれほど良くなく、折り目から綻びやすいことを承知して下さい。コピー用紙はなおさらです。

地図の番号や山名地名を参考に20万図で大体の位置を想定し、ネット地図を拡大し詳細を調べる、またはコピーする。他に色々な使い方はあると思いますが、有効に活用して下さい。

そのネット地図ですが、皆さんは多分、左下に表示されるメジャー寸法が300mのを使っていると思います。この地図はコピーの方向により縮尺が異なり、概算数値ですが、縦長コピー：1/17860、横長コピー：1/14420です。これは2.5万図より大縮尺で見やすいのですが、最大の欠点は地図上で距離を測りにくいということです。これは山ではかなり重要なことで、その点2.5万図は4cmが1kmで分かり易いのです。

これまで地理院の地図とネット地図との関連等を解説してきました。その他の地図上の問題点や地図の見方等を以下に解説していきます。

*三角点の等級の調べ方

昔は名古屋の地理院まで行って閲覧しましたが、今ではネットで簡単に調べられます。地理院の「基準点成果等閲覧サービス」は使い勝手が悪いので、私はスマホの無料アプリ「三角点(アイコン図形は「△」)」を使っています。

地図を拡大していけば、全国全ての三角点が一等「△」二等「△」三等「△」四等「△」で表示されますので一目瞭然です。目的の△にタッチすれば画面上部の帯に点名、等級、緯度経度、標高が表示され、帯の右端の図形にタッチすれば、より詳しいデータが表示されます。そこに所属の都道府県が示されており、県境上の三角点の所属都道府県が分かります。

このアプリは地理院の地図がバックに表示され、かつ現在地点が表示されます。したがって三角点を探すのに非常に有効な武器になり、山の中でも大縮尺にすれば、数mの精度で目的の三角点に近づけます。ただし、バッテリーがすぐに消耗するので、予備を忘れないようにして下さい。

*山の標高について

前述した三角点の成果で調べた標高と、地図で表示されている標高が異なっている場合がかなりあります。極端な場合0.5mも違っています。また、地図の古い版と新しい版でも異なる場合があります。その理由はいろいろあると思いますが、我々には分かりませんし必要のないことです。

問題はどの値を使うかということです。結論として「岐阜山岳」その他岐阜支部の書類では地理院のネット地図で表記されている標高を使うことに統一しようと思います。その理由として、まずネット地図は常に最新版であることです。さらに、三角点のない山の標高は地理院の地図に頼るしかありません。それと根拠を合わせるために、三角点のある山の標高も地理院の地図(最新版)の値を採用するのが妥当と考えられるためです。

*山の勾配(傾斜)の目安について

最初にお断りしますが、以下の記述は2.5万図を対象とします。ネット地図のコピーは縮尺が曖昧なので、換算するか推測するかして応用して下さい。